

道のスペシャリストとして 社会基盤を守る 「誇れる会社」を 目指します

代表取締役社長
黒川 修治



「目指す将来像」に向け、3つの取り組み課題を設定

昨今、大林道路を取り巻く事業環境は、エネルギーをはじめとした資材価格の高騰などサプライチェーン上の不確定要素が顕在化する中、円安の進行などもあって先行きの不透明感が増えています。一方、政府が推進する国土強靱化基本計画を背景とした、道路をはじめとするインフラ整備更新需要は今後本格化する見込みであり、私たちが本業を通じて社会課題を解決し、サステナビリティに貢献する機会をますます増えていくものと考えています。

2022年3月、当社が発表した「中期経営計画2022」は、「豊かな生活環境の創造に向けて 地域社会と共に歩み人間尊重の経営を行います」という企業理念のもと、創立100周年(2033年)の「目指す将来像」に「最高水準の技術力と生産性を備えた道のスペシャリスト集団」としての「誇れる会社」を描き、その実現に向けた最初の5年間のロードマップとして掲げたものです。加えて、大林グループの基本方針である「サステナビリティの実現に向けたソリューションを提供する企業」を見据えた内容にもなっており、「働き方改革の完了と多様な働き方への適応」「カーボンニュートラルへの取り組み」「加速するインフラ老朽化対策への貢献」の3つを重点的に取り組むべき課題としています。

「働く場」としての魅力高める

「働き方改革の完了と多様な働き方への適応」は、2024年4月より建設業に適用される改正労働基準法への対応という意味でも、まさに喫緊の課題です。今後は労働力確保が難しくなっていくことが確実な状況にあって、協力会社を含めた多様な人材が能力を最大限に発揮できるストレスフリーな職場を、スピード感を持って作り上げていかねばなりません。建設業における人手不足はすでに危機感を持ってとらえるべきものとなっており、デジタル化やDXによる生産性の向上が解決策として重要であると考えます。

目指しているのは、家族が誇りを持って安心して送り出せる会社です。当社は安全・安心・高品質な仕事を旨とするものづくりの会社であり、社会に大きな価値を提供することができますが、働く場としての魅力を一層高めていかなければ、自らの持続可能性を高めることはできないと考えています。

大林グループの一員としてカーボンニュートラルに貢献

「カーボンニュートラルへの取り組み」は、非常に強い社会的な要請であるとともに、大林グループ全体の企業価値向上に向けた重要な取り組みであると認識しています。道路舗装業においては、アスファルト混合物の製造過程におけるバーナ燃焼時に多くのCO₂が排出されます。そこで当社では、2022年4月にカーボンニュートラル推進プロジェクト・チームを立ち上げ、CO₂排出量を削減する取り組みを加速する体制を整えました。環境負荷の少ないエネルギーへの転換や施工・製造効率の向上による排出量の削減に加えて、アスファルトプラントにおける都市ガスと水素の混焼バーナの燃焼実験に取り組んでいきます。この実証実験は、株式会社大林組が大阪府九町で製造している地熱発電グリーン水素を活用する予定であり、まさに大林グループが一体となって推進する取り組みです。今後もさまざまな角度から技術革新に挑み、カーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

あらゆる道路を支え、サステナビリティに貢献

高度経済成長期の設置から40年以上が経過し、急速に老朽化が進む高速道路を更新することは、当社の存在意義そのものを問う重要な課題と言えます。新設工事とは異なり、リニューアル工事では社会活動を止めることなく、安全・安心な道路をより迅速、かつ頑丈によみがえらせなければなりません。また、国内外において自動運転技術やパーソナルモビリティの実用化、および燃料電池自動車(FCV)や電気自動車(EV)の普及などが進むにつれて、今までとは異なる仕様や形状の道路が必要となります。そのため、設置当時の状態に戻すのではなく、社会の変化に対応しつつ、最新の技術を活かしたリニューアル工事を展開していくことが、これからの私たちに求められる使命であると考えています。

「道路」は日本中に張り巡らされた交通網であり、人々の生活に伴うさまざまな移動を支える社会インフラです。凹凸やストレスのない道路のありがたさ、重要性は損なわれて初めて気づかれるものであり、道路が当たり前のようにある状態を守り続けることが、サステナビリティへの貢献と言えます。特に異常気象などの災害に道路が被害を受けた場合、その迅速な復旧を第一に考える意識は当社従業員の間に着実に根付いており、その社風を私は常日頃から誇りに感じています。これからも当社は社会インフラの整備を通じ、持続可能な社会の形成に貢献していきます。